



# From SOZAN to You!

中学生のみなさん こんにちは！

今回は、皆さんの先輩たちからのメッセージをお届けします。

## 新入生 学年主任と語る

入学前の不安、1か月経った感想など、1年学年主任の山崎先生と語りあいました



7人の生徒が参加してくれました。本文中では略称で話し手を示しています。  
 藤本龍太郎さん（玉中学校出身 演劇部）石原佳恵さん（竜操中学校出身 吹奏楽部）  
 河原昭太さん（加茂川中学校出身 野球部）森岡美紅さん（上道中学校出身 陸上部）  
 北川若奈さん（日生中学校出身） 福島由貴さん（吉備中学校出身 弓道部）  
 川上寛大さん（岡北中学校出身）



山崎先生：では早速、先日行ってきた宿泊研修の感想から聞いてみたいのですが、どうでしたか？



藤本：僕は中学校から一人で来たんですが、いろいろな人と話すことができ、仲良くなれてよかったです。

—私は藤本君の入所式の挨拶に感動しました。本当に素晴らしい挨拶でしたね。

では他の人にもどんどん聞いてみましょう。—

石原：小、中の研修は、みんなとことなく自分勝手な部分もあったんですが、今回の研修ではお互いがお互いを理解しようとし、高校生らしく交流ができていて本当に充実していました。

河原：スタンプは最初ものすごく緊張しましたが、周りの友達がしっかり盛り上げてくれましたし、ほかのクラスの人や、普段交流がない人とも仲良くなれました。それに、仲のいい友達でも、普段わからないような意外な面がわかって、とてもいい経験になりました。

森岡：一日目に行ったクラス討議で、どんな仲間になりたいかみんなで話しあったおかげで、みんな「がんばろうや」と声をかけあったり、助け合ったりすることができていました。

北川：中学校の研修でのスタンプは、あまり印象に残っていないんですが、スタンプではすごくみんなが一つになれた気がして、5組でよかったと思えたことが一番の思い出です。

福島：中学の研修では、男子と女子との間で交流が少なく、高校もそんな感じなのかなと思っていたんですが、操山高校では男女仲がよくて、班を超えて協力したりできました。だから本当にいい人間関係が築けた研修だったと思います。



山崎先生：では、操山高校に入ったきっかけを聞かせてもらってもいい？

川上：パンフレットや110周年記念テレビを見たことが一つです。また先輩の話を聞いても勉強と部活の両立がみんなできていて、操山は楽しいから来た方がいいよと言われたからです。

北川：知り合いに操山の先輩がいて、操山のここはちょっと…と思ったところはありますかと聞いたときに、思い当たることはないと言き本当にいい学校なんだろうなと感じました。またオープンスクールに来たり、資料を見たときに、未来航路プロジェクトというものを知りました。高校と言えば「勉強しなくちゃいけない」というイメージだったんですが、操山の未来航路プロジェクトだったら、しっかり自分の将来に向けて勉強できると思ったので操山に入りたいと思いました。

森岡：最初操山は勉強だけというイメージだったんですが、いろいろ調べてみると部活にも力を入れているということがわかりました。私は大学にも行きたいので、勉強はちゃんとしたいし、部活動でも活躍したいので、それが両立できる操山に入ろうと思いました。

—森岡さんは実は陸上の全国チャンピオンなんですよ？是非、勉強と部活の両立を目指して頑張ってください。河原君は家が遠いと思うんですが、操山に来ると決めたくっかけは何でしたか？—

河原：操山のパンフレットを見て、先輩の言葉に「時間の使い方を教わった」というものを見つけました。僕は中学生の時にはただただして、あまり充実した時間の使い方ができていませんでした。でも操山にすれば勉強と部活動の両立ができると思ったし、時間の使い方がわかれば将来の役にたつし、自分に楽しい生活が待っているのではないかと考えたのがきっかけでした。

